

## 東海村吹奏楽団

# 第18回「春の演奏会」

村内を中心に活動する「東海村吹奏楽団」の自主公演です。春のひとときに吹奏楽の演奏をお楽しみください。未就学児も入場できますので、ぜひご家族皆様までご来場ください。

期日▼3月9日(日)

時間▼午後2時開演(午後1時15分開場)

場所▼東海文化センター

内容▼▽指揮…原進さん(東海村吹奏楽団常任指揮者)▽曲目…交響詩「ローマの祭り」(全曲)、サザンオールスターズ・メドレー、塔の上のラプンツェル・メドレー ほか

入場料▼無料(全席自由)

その他▼▽事前申し込みは不要です。▽東海文化センター駐車場整備工事に伴い、駐車場の一部が利用できませんので、可能な限り乗り合わせ等のご協力をお願いします。

【問い合わせ】東海文化センター(☎282-8511)※詳細は、東海村吹奏楽団ホームページをご覧ください。



▲HPIはこちら



## 茨城東病院の事始(ことはじめ)

ふるさと歴訪

ー歴史を再発見ー

コロナによる隔離騒動は記憶に新しいと思います。まだ結核が不治の病とされていた頃の昭和12(1937)年、結核療養所として国内初の隔離病棟が村松に設置されました。茨城東病院の前身、「村松晴風荘」です。三代荘長の加納先生は、「農婦が門の前を手ぬぐいで鼻と口を押えて脱兎のごとく通り過ぎる姿を見た」と、『遡源東海』第4号(1990年)でその頃のことを記していますが、このような見方をされる時代でした。

当時の通用門は、現在の核燃料サイクル工学研究所の門の南方約100メートルにあり、東へ200メートルほど行くと、松林の中に外来病棟がありました。外来病棟は消毒液のにおいが強く、天井が低くて暗い廊下には黒い長椅子があり、その先に診察室がありました。予防接種に連れて行かれた時、私にはとても怖く、その廊下を逃げ回った記憶があります。現在の茨城東病院の場所には、2階建ての事務棟がありました。

官舎は現在の「とうかい村松宿」こども園の所にあつて、松林の中に、平屋と2階建てのモルタル造りのアパートが建っていました。



【盆踊り大会(昭和55(1980)年)】

私は、3歳ぐらいまでこのアパートで育ち、その後は近くの母の実家に引っ越しました。外来病棟より約300メートル南に寿康館があり、患者さんの写真展や句会などが行われていました。住民にも開かれた映画鑑賞会が行われ、「愛と死をみつめて」などを見た記憶があります。ひな祭りには、看護婦寮に友人と一緒にいき、白酒やアラレをいただいたのも思い出深いです。夏には盆踊り大会が行われ、職員の間にも開かれていました。開荘当時は村民にとって、おそらく結核への偏見や恐れがあったことでしょう。それを払拭するために努力されていたことがうかがえます。単なる隔離ではなく、軽度となった人は「外気小屋」で野菜栽培などを行い、社会復帰ができるような温情あふれる運営が行われていたようです。治癒後、東海村民として定住する人が多かった一因と言えるかもしれません。肺結核治療の先端を切り開いてきたと同時に、患者に寄り添うだけでなく職員や家族の福利厚生、地域に開かれた「村松晴風荘」を目指したように思います。

東海村文化財保護審議会委員

宮田 裕紀枝



東海村発足70周年  
最新情報はこちら



▲70周年記念  
公式X